

拝啓 今年も早や 11 月末、晩秋の頃となりました。いかがお過ごしでしょうか。いつもエンカウンターお読みいただきありがとうございます。今月号は 12 月号で、今年も無事 12 回お送りすることが出来て感謝です。本誌読者の米倉安雄さんにご友人の船倉昌之さんのおかげで、エンカウンターがパソコンで、日本中で（世界中でも）読むことができるようになり光栄に思っています。

相沢良一先生の『黒潮の神学』の第 7 回をお送りします。『黒潮の神学』上巻は、496 ページもある大きな本ですが今回で終わり、来月からは下巻に入ります。今月号の最後のページに、平成 18 年 4 月 7 日に、私が伊豆大島の相沢先生のお宅を訪問した時の写真を載せました。南原先生の伊豆大島訪問の事をお聞きしに行ったのですが、旧知の如く親しく話を伺うことが出来ました。翌日は一人で三原山登山をしました。

1 1 月 3 日(文化の日)、学士会館で、『南原繁と日本国憲法』というテーマで、第 7 回南原繁シンポジウムが開かれました。約 200 名の方が参加され、良い会でした。お祈りを感謝いたします。私は事務局でしたが、第 1 回から毎回、その回がきちんと行われるように準備することだけを考えてやってまいりましたら、いつの間にか第 7 回になり、光栄なことだと思います。

毎朝、日野原先生の新刊のご本の 1 節を、小西先生の『主の御名を呼ぶ』、内村先生の『一日一生』などと共に読んでおります。昨日読んだ『100 歳になるための 100 の方法』(文春文庫)という本の 1 節をご紹介します。映画監督の松山善三さんとの対談の 1 節です。

「松山 日本と言う国は本当に美しい国だと思うんです。東西南北を海に囲まれ、その上春夏秋冬という季節が訪れる。その季節の変化が、日本人の複雑で美的な感性を作り上げたんじゃないかと僕は思ってます。

日野原 私も全くそう思います。

松山 たとえば鎮守の森であるとか、神社仏閣にある樹齢 100 年、200 年という気の前に立つと、日本人なら誰でもちょっと厳肅な気持ちになる。あの気持ちは何だろうかと考えます。そして日本には盂蘭盆という慣習があります。... こんな美しい、優しい行事やメンタリティをもった民族は日本以外にあるでしょうか。

日野原 いやー、ほかにはないでしょう。」

全く同感だと思いました。今年は特に紅葉がきれいでしたので、余形そう感じました。

暮の気ぜわしい時期になりますが、どうぞお体ご自愛ください。 敬具

平成 22 年 11 月 27 日

山口周三

エンカウターの読者各位